

3月RCS研究会「移動通信ワークショップ」 のご案内(3月2日～4日)

場所：横須賀テレコムリサーチパーク YRPセンター1番館 YRPホール, 会議室
(京浜急行線YRP野比駅からバス10分. 光の丘5番下車. 詳細は[こちら](#))

併催：SR研究会, MoMuC研究会

共催：IEEE VTS Japan Chapter, YRP研究開発推進協会

協賛：NICT

3月RCS研究会のセッション構成

- 各セッションでは互いに関連した最先端のご研究結果をご発表いただきますので、有意義で活発な議論の場を提供できるものと期待しております。皆様奮ってご参加ください。
- プログラムの詳細は[こちら](#)をご参照ください。

		3/2(水)	3/3(木)	3/4(金)
午前	YRP ホール	信号検出	干渉低減 / LTE-A	セキュリティ / 回線制御
	会議室	チャネル推定 / 分散 アンテナシステム		PAPR / MIMO / CoMP
午後	YRP ホール	SR研 (オーガナイズセッ ション・一般)	共通オーガナイズセッ ション「ヘテロジニアス ネットワーク」	リレー / ネットワーク符 号化
	会議室	MoMuC研 (一般・学生特別セッ ション)		ターボ符号・検出 / 伝搬 / ミリ波 / アンパ

ヘテロジニアスネットワーク

～要素技術からサービスアプリケーションまで～

■ 主旨

近年、複数の無線通信サービスが提供されており、異なった無線通信システムや、同一の無線通信システムにおける異なったサービス形態をシームレスに統合できる無線ネットワークとしてヘテロジニアスネットワークが注目されている。ヘテロジニアスネットワークを実現する技術として、異なるシステムを効率的に利用するため、スペクトラムセンシングや周波数共用等が検討されている。また、同一システムで実現される移動通信においても、基地局間連携、中継・マルチホップ、フェムトセル、分散アンテナ等のヘテロジニアスなサービス形態が検討されている。一方、ユーザの多岐にわたる要求に応えるため、ヘテロジニアスネットワークはキー技術の一つであると考えられ、今後は新たなサービスやアプリケーションが展開されると期待される。本セッションでは、ヘテロジニアスネットワークやその実現技術に関してご講演をいただき、将来の無線通信システムやサービス形態、それらを実現するための技術課題について議論する。

■ 日時: 3月3日(木) 13:00～18:00

■ オーガナイザー: 大鐘 武雄 氏 (北海道大学, RCS研委員長)

■ 招待講演(各35分):

鈴木 利則 氏(KDDI研): ヘテロジニアスネットワークとしての異種無線システムの融合

上原 一浩 氏(NTT): フレキシブルワイヤレスシステムの研究開発 ～ユーザが自由に無線アクセス方式を選べるヘテロジニアスネットワーク～

山田 暁 氏(NTTドコモ): 無線LAN標準化動向 ～異種システム間連携に向けて～

鹿倉 義一 氏(NEC): 3GPPにおけるヘテロジニアスネットワークに関する標準化動向

阪口 啓 氏(東工大): ヘテロジニアスネットワークのモデル化と無線リソース最適化

井上 真杉 氏(NICT): NerveNet ～マルチホップ無線と分散情報処理の融合ネットワーク～

松岡 保静 氏(NTTドコモ): マルチメディア放送における蓄積型放送方式と放送補完技術

■ 総合討論: 30分